

2011年10月25日

「赤ちゃんにやさしい病院・BFH」
認定施設長殿

第7回「赤ちゃんにやさしい病院・BFH」連絡会議の開催ご案内

一般社団法人日本母乳の会
代表理事 山内 芳忠

第7回 BFH 連絡会議の開催ご案内とご挨拶を申し上げます

東日本大震災で被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

さて、日本母乳の会の大きな事業であります第20回母乳育児シンポジウムは京都市のみやこめっせで開催いたしました。みなさまのご協力で、1100名の参加を得て無事に、しかも盛会におえることが出来ました。皆様のご支援とご強りに感謝申し上げます。

詳細につきましては、ニュースレター49号をご覧ください。

特に、震災の後でしたので、急遽、災害特別シンポジウム「大震災—母子への支援」を企画しました。最終日にもかかわらず多くの参加者で会場は埋まり、しかも被災された方々から直接にお話をさせていただきましたので、メディアでは報道されない多くの情報を共有でき、しかも共感して、災害の大きさと被害の甚大さを改めて肌で感じる事ができました。多くの事を学ぶことになり関西をはじめ全国の方々は、今、何ができるのか、何をすべきかをひとりひとりが考える意義深いシンポジウムとなりました。

今回は、20回の節目でもありましたので、種々の企画が検討されましたが、東日本大震災の影響の大きさを鑑みて、多くが見送りとなりました。特に、BFH 認定式の延期が上げられます。BFH 推薦のための現地調査には被災された地域も含まれていた関係もあり、8月までに現地調査が間に合わず、見送りとなりました。しかし8月以降に現地調査を4施設で行うことが出来ました。最終的には1施設が推薦されることになりました。この度のBFH 連絡会議で皆様にご紹介させていただきます。

3月11日の大震災は、私たちが決してわすれることのない、また忘れてはならない出来事です。皆様のご支援とご協力で復興が少しでも早まることを願っております。

震災は、母乳育児の重要性や重大さを改めて知らされた機会でもありましたが、その一方で、母乳育児を実践出来ていない多くの方々への支援も大きな課題であることが明らかとなりました。日頃からの母乳育児の取り組みの重要性、そしてさらなる活動の必要性を実感しています。

厚生労働省、ユニセフ、すこやか親子、各種学会関係そして日本母乳の会をはじめ多くの母乳育児支援団体の活動にもかかわらず、オールジャパンの母乳育児率の向上や赤ちゃんにやさしい病院の増加には、十分に反映されていない現状が浮き彫りになりました。今後の活動のあり方にも議論が必要であります。

日本母乳の会は、災害後直ちに電話相談やホームページで、母乳育児支援に取り組み、義援金のご協力についてもお願いをしてきました。義援金については、現在も継続して受け付けておりますので、是非、ご支援のほどよろしく申し上げます。

さて、本年、1施設が「赤ちゃんにやさしい病院・BFH」に認定申請され、62施設となりました。

62施設の赤ちゃんにやさしい病院は機能分担はもちろんですが、母乳育児支援にも大きなバラツキが見られるようになりました。BFHデータ委員会の依田らの報告に見るように数値としてその違いが如実に現れております。このBFH連絡会議は、少なくともこのバラツキを小さくできるような意見交換の場となってくれることを切に願っております。

そして諸外国で見られるような返上や脱落施設を出さないように支援・協力することもBFH連絡会議の役割と考えております。従いまして、BFH関係の皆様には、是非、多くのご参加をお願い申し上げます。

おわりに、この度のご案内が大変に遅くなりましたこと、深くお詫び申し上げます。なお、今回はBFH連絡会議委員会とワークショップ委員会の共同で企画されることになりました。何時もながら準備に取り組んでおられる関係者のご尽力に感謝申し上げます。